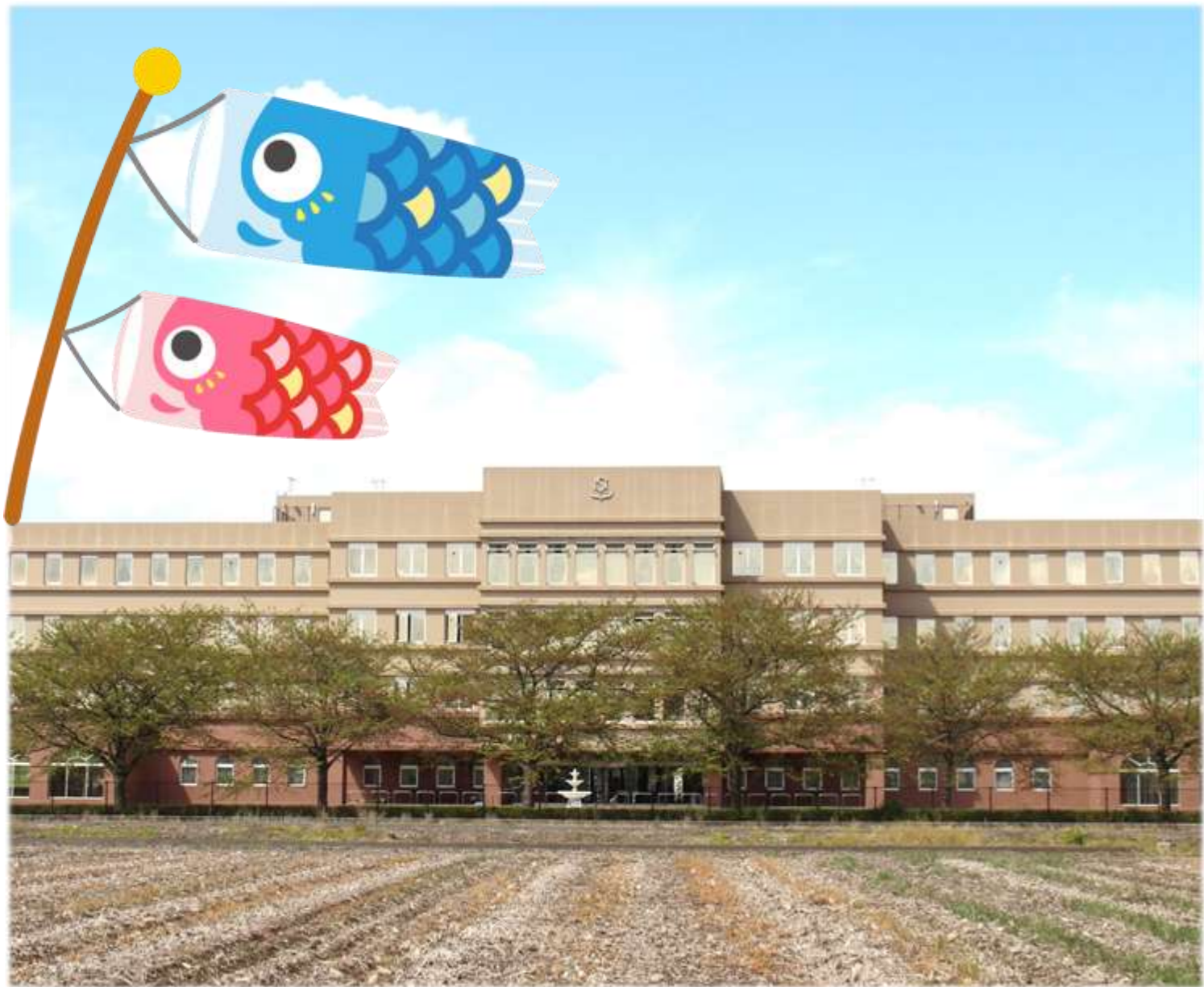


セントノア

〒344-0001
埼玉県春日部市不動院野1112-1
TEL048-760-1200
FAX048-760-1201
https://www.saintnoah-kasukabe.jp



おいしいね
美味しいね



さくら、天晴！
何よそれ？

咲き誇る桜をバックにお汁粉と甘酒（ノンアル）を頂きました。屋外で飲む味は格別！



お花見会

おいやーあああああああ！



病棟対抗の玉入れゲーム！入り過ぎてカウントが大変。もうすこし手加減して～



うおー
やったぜ！

優勝賞品は巨大なお菓子のトロフィー



さて、桜は
また来年だね

お汁粉も1年
待つかい？

～目次～

- 病院短信
- 日常の一コマ
- いきいき看護・介護
- PSWだより
- お花見会
- スタッフ紹介

- 渡辺 弘子
- 栗原 美子
- 染谷 智美
- 渡邊 正基
- 院庭にて
- 飯島 未理

5月の予定



◇誕生日会

1病棟	5月 9日(月)
2病棟	5月 9日(月)
3病棟	5月11日(水)
各病棟デイルーム 14:00～	

スタッフ紹介

作業療法士
いいじま みり
飯島 未理

好きな食べ物
カレー・茶碗蒸し



昨年10月に入职しました。少しずつ慣れてきましたが、初心を忘れることなく、患者さんへ優しく丁寧に関わっていきたくです。最近体力が低下気味なので身体を動かしたいと思っています。以前は空手や水泳等ハードに取り組んでいました。取り敢えずゆる～く始めて、体力をつけていきたいです😊



病院短信

『高齢者の骨はもろい「脆弱性骨折」』

2病棟 看護師長 渡辺 弘子

院庭の桜もすっかり葉桜となり、新緑が眩しく感じます。去る3月30日に満開の桜のもと、全患者さんと恒例のお花見をしました。おしるこや甘酒を飲んで、歌を唄ったり各病棟対抗の玉入れゲームをしたりしました。2病棟が見事優勝し（初めてかもしれません）、大きなお菓子のトロフィーを勝ち取りました。

その翌日の3月31日に、ホスピタルライフマネージャーの田中さんが退職されました。川越セントノア病院の開院から20年に渡り、多大な貢献をされてきた田中さんは、常に患者さんに寄り添い、ご家族の立場に立って私達にアドバイスをくれました。また、院内をお花でいっぱい飾ってくださり、そのお花で患者さんも私たちも癒されました。今はまだ、ぽっかりと穴が開いたような思いですが、田中さんが大切にしていたご家族への思いはしっかりと受け継ぐ覚悟でいます。

さて、高齢になるとちよつとした転倒でも骨折に繋がることがあります。これは加齢とともに筋力が低下し、歩くときなどに足が上がらなくなると転倒しやすくなることに加えて、骨がもろくなっているためです。認知症の患者さんは、危険を予知することもできず、歩けないのに歩いてしまうなどの判断力が著しく低下し、骨折してしまうことがあります。

当院は開設17年目を迎え、長期入院されている患者さんも少なくありません。はじめは独歩で入院された患者さんも、徐々にADLの低下から車イスとなり、さらには座位保持も困難となつて、現在2病棟では20名の患者さんがリクライニング車イスに移行しています。そのような患者さんは、四肢関節が屈曲拘縮し、筋力低下から骨密度が減少しています。先日、半身麻痺のある患者さんが麻痺側のひざ上を骨折してしまいました。患者さんに苦痛を与えてしまったことを深く反省し、日頃のケアを見直しました。その患者さんの移動は常にお姫様抱っこでしたが、そのわずかな外力で骨折が起こってしまったのです。「脆弱性骨折」。軽微な外力が加わった時、あるいは明らかな外力がなく、日常動作程度でも生じる骨折です。

- 寝たきり状態の患者さんのケアを以下のように見直しました。
- ①トランス（移動）時、身体の下にバスタオルを敷いてスライディングボードを使用する。リクライニング車イスとベッドの角度を合わせ、2人でバスタオルを持って移動。そのことで患者さんに負荷をかけることなく移動できます。
 - ②入浴時の着脱は2人で対応し、手や足を直接握ることなく、関節を支えて動かすようにする
 - ③おむつ交換時も2人対応とする
- 基本は2人で対応し丁寧にケアすることが重要です。今回の骨折のようなアクシデントを繰り返さないよう日々ケアを見直し、患者さんの安全を考え、ケアもレベルアップしていきたいと思えます。

いきいき看護・介護

1病棟 看護師 染谷 智美

質の高い眠りは規則正しい生活から質の高い眠りを得るためには、規則正しい生活を心がけることが何よりも大切です。私たちの体の中には生命活動を営むための「体内時計」があり、朝になって光を浴びると体内時計がリセットされます。1日24時間のリズムに合わせて規則正しい生活をしていけば、夜になると自然と睡眠の準備が整って質の高い眠りが得られます。

《快眠を誘う生活習慣ポイント》

- ・1日3食の食事を規則正しく取る
- ・寝る時間と起きる時間を毎日一定にする
- ・朝目覚めたらカーテンを開け自然光を浴びる
- ・就寝3時間前に適度な運動を習慣にする
- ・入浴は就寝2〜3時間前に
- ・就寝前はPCやタブレット端末、スマートフォンなどの画面を長時間見ない



日常の一コマ

今回は2病棟の澄子さん（92歳）の一コマです。澄子さんは北海道小樽市の出身で、5人兄弟の4番目として生まれました。女学校を卒業後には公団に勤められ、そこでご主人と知り合い、3年後には結婚。ご主人が公団を辞めて自営業に専念するために二人で上京し、二人の男の子に恵まれて専業主婦として家事や子育てに専念されてきたそうです。



平成14年、澄子さんが72歳の時に長年連れ添ったご主人に先立たれ一人暮らしとなりましたが、その頃から「眼」と「耳」が少しずつ不自由になり、80歳に近くなった頃から「幻視」や「幻聴」の症状が見られる様になり、ご家族と相談して近くの病院を受診したそうです。その診断結果は『レビー小体型認知症』でした。（この病気は、①理解力・判断力が比較的ハッキリしている時と低下している時を、交互に繰り返す ②実際には周りに居ない人が見えたり、小動物などが見えたりする幻視が起こる ③パーキンソン症状の手が震えたり、足がこわばって歩き難くなりしばしば転倒する事も起こります）

澄子さんは、その後もデイサービスなども利用しながら一人暮らしを続けてきたそうですが、外出先で迷子になって警察に保護されたり、転倒して救急搬送されたりしたため、急遽「老健」に入所したそうです。ところが入所が気に入らなかったのか、その直後から幻視、暴言、大声、はては暴力までが酷くなり、施設対応困難となり、その施設の紹介で令和2年に当院に入院をされました。

澄子さんは、入院当初からしばらくはやはり幻視や帰宅要求、大声などの周辺症状があり、感情も不安定で、夜眠れないことや食欲が低下することも多くありました。「ちょっと私の話を聞いて〜！」とスタッフを大声で呼び止める事もしばしばで、湿布や痛み止めの薬、目薬などを要求したり、補聴器などの不具合を訴えたりしていました。スタッフはそのような要求があるたびに澄子さんが不安にならないよう、丁寧に対応することを心がけ、訴えに向き合ってきました。今でもお話し好きの澄子さんの隣には、よくスタッフが座っておしゃべりをします。ご自分の少女時代のお話や、自慢の息子さん、お孫さんのお話をしている時は、目をキラキラさせて一番の笑顔を見せてくれます。先日の院庭での「お花見会」の後でも「少し寒かったけど桜がとてもキレイで、お汁粉や甘酒がとてもおいしかったよ」と笑顔で話してくれました。澄子さんは現在、車椅子の生活ながらも、排せつや食事の摂取、ベッドへの移乗などもご自分でなされます。とても立派だと思います。



これからも日々のおしゃべりを楽しみつつ、澄子さんの穏やかな笑顔がいつまでも続くようにスタッフ一同、頑張っていくつもりです。

2病棟 看護師 栗原 美子

PSW だより

精神保健福祉士 渡邊 正基

長く辛い寒さが和らぎ、暖かく過ごしやすい季節に入りました。桜は散ってしまいましたが、中庭を散歩することは、患者さんにとって楽しみの一つです。外の新鮮な空気を吸えるだけでなく、日光を浴びることで体内時計を整えると、気分転換だけでなく、不眠の解消にも繋がります。こういった理由から、当院では日々のレクリエーションに散歩を積極的に取り入れています。

依然としてご家族の皆様には、面会に関してご迷惑をおかけしておりますが、自由に面会が出来るようになったら、ぜひ家族水入らずでの散歩をお楽しみください。

